

◎常任委員会の所管事務調査の結果報告について

○議長（山本浩平君） 日程第18、常任委員会の所管事務調査について、調査結果の報告を求めます。

広報広聴常任委員会、氏家裕治委員長。

〔広報広聴常任委員会委員長 氏家裕治君登壇〕

○広報広聴常任委員会委員長（氏家裕治君） 所管事務調査の結果報告について。

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告いたします。

記、1、調査事項。（1）、分科会、①、産業厚生分科会、胆振水産加工業協同組合との懇談。（2）、小委員会、議会広報の発行及び広報広聴の調査・研究、議会懇談会について。

2、調査の方法、3、調査日程、4、出席委員、5、職務のために出席した者の職氏名、6、団体からの出席者は記載のとおりでございます。

7、調査報告。

本委員会は、所管事務調査として町内活動団体との懇談及び議会広報の編集・発行等が終了したことから、次のとおりその内容を報告する。

（1）、産業厚生分科会。

産業厚生分科会は、胆振水産加工業協同組合との懇談を実施した。なお、その内容については、別紙「活動報告書」のとおりである。

（2）、小委員会。

小委員会は、議会広報144号の編集・発行、広報広聴の調査・研究及び議会懇談会に関する調査を行った。

広報広聴の調査・研究では、8月20日火曜日に平成25年度議会広報研修会に参加し、広報コンサルタント深沢徹氏による、議会広報による求められるものは、「ありのまま・わかりやすく・住民とともに」の講演で感じられた点をいくつか紹介し、報告としたい。

初めに、「政策提案、行政チェックの姿勢」について、議会の独自の調査、研究、視察研修等、政策提言につながる活動は積極的に報道、また行政チェック、検証、追跡の姿勢と企画を持つことが大切であること。

「開かれた議会、議会改革への姿勢」については、議会改革に対する取り組みが住民に理解できるような情報提供と議会と住民の対話集会、アンケートなどの内容を積極的に報道し、住民からの質問、疑問に積極的に応える企画も必要であること等々について講演が進められた。

白老町議会広報の編集課題についても今後議論しなければならないが、いずれにしても読者の視点に立った編集が必要であり、読者の率直な声と顔の出る常設の企画を持つことも大切になるだろう。また、編集への住民参加（アドバイザー、モニター、写真の公募）を取り入れている議会広報もあることから、「住民とともに作る広報」のあり方も今後議論を深めていきたい。

以上であります。

○議長（山本浩平君） ただいま広報広聴常任委員会から報告がございましたが、この報告について何か質問がございましたらどうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本浩平君） 質疑なしと認めます。

それでは、これをもって報告済みといたします。